

# ○「担い手の育成・確保を図る方策の検討」

(京都府南丹市南丹地区(担い手対策)連絡会議)

担い手への  
農地利用の  
集積・集約化

遊休農地の  
発生防止・  
解消

新規参入の  
促進

その他  
(農業委員会の  
体制強化等)

## 1 活動の日時や時期、場所等

- 日時(時期): 平成31年2月5日
- 場 所: 南丹市役所3号館2F 201会議室
- 出席者: 農業委員5人、最適化推進委員5人  
現地推進役 原田
- 報告者: 原田清弘 農業会議現地推進役



## 2 地区の特徴、状況、課題

○京都府のほぼ中央部に位置し、大半を丹波山地が占め山陰内陸性気候で京都市への通勤圏にあり年々農家数が減少している。水稲作が多くその他麦、豆類が栽培され、京のブランド産品(水菜、壬生菜、九条ねぎ、紫ずきん、黒大豆、小豆)の栽培が盛んである。  
○農家戸数の減少、農業従事者の高齢化等が進行する中、農業の持続的な振興及び農地の多面的機能を維持していくためには、担い手の育成・確保が重要な課題である。

## 3 課題解決に向けた活動(農地利用の最適化推進の取組と工夫)

- 各委員が新規就農や担い手への支援制度を熟知して、相談等に対応できるよう研修を受け、相談と支援できる体制が必要
- 新規就農者の就農前に関係機関(市、普及センター、機構等)一同に介してヒアリングすることを提案
- 若手農業者と農業委員、最適化推進委員との意見交換を行い、営農の課題等を把握することが必要
- 水稲栽培は、多額の機械投資が必要であり、採算が取れない状況
- 次回(3/1)は、国や府の新規就農や担い手支援策について、研修を受け議論を深める

## 4 活動結果

- 情報・意見交換 2 時間
- 担い手への集積 a 増加
- 遊休農地面積 a 解消
- 新規就農者 人 支援